

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校

1. 事業名称

地域の一員としての外国人のための日本語教育・体制整備推進事業

本校は、外国人の子どもの専門教育機関であることに加え、父兄や教員のネットワークにより、日常生活者としての外国人の生活現場について豊富な情報を捕捉している。大人から子どもまでを対象とした日本語教育が可能であり、外国人学校ならではのネットワークの活用等により、日本語学習が求められる日常生活者の掘り起こしも可能である。本校を活動拠点とし、行政、教育機関等をはじめ地域連携を通じて、日常生活者に密着した身近なテーマを題材に日本語教室を実施することで生活者としての外国人の日本語能力等の習得を目指す。また、日本人に本事業への積極的に参加を促し、シンポジウムにおいて本事業の取組成果を情報発信することにより、地域への日本語教育の必要性の啓発、本事業の取組成果を情報発信し、取組体制の推進を図ることで日本人と外国人を繋げ、共生社会の実現を目指すことを目的とする。

2. 事業の目的

本校が取り組み培ってきた地域との連携をはじめ、外国人学校ならではの外国人コミュニティとの連携、日本語教師・バイリンガル教員の活用により、他の日本語教育活動団体の活動が十分に及ばない日常生活者に留意しつつ、日本文化をはじめ防災など日常生活に身近なテーマを題材とした日本語教室の実施、地域への日本語教育の必要性の啓発、本校取組体制の情報発信を行うことにより、浜松地域における大人から子どもまでの幅広い生活者としての外国人の日本語教育活動を推進する。

3. 事業内容の概要

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年6月25日 14:00~16:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	坂田 英夫 中村 秀夫 鈴木 秀志 矢野 彰 鈴木 圭子 松本 雅美 岡 則子	取組内容・シンポジウム開催・連携体制の検討及び意見交換	取組内容説明 シンポジウム開催時期について 連携体制構築について



5. 取組についての報告

○取組1: 防災・緊急時日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

1. 災害時の際の避難場所や情報入手方法などの情報を提供することで、災害時に落ち着いて行動できるようにする。
2. 災害時に必要な日本語を習得することで、地域の防災訓練や消火訓練への参加のきっかけを作る。
3. 非常時に日本語で適切な通報ができるようにする。
4. 教室への参加を日本人に促すことで、互いを知るきっかけ作りをし、非常時の連携体制の構築を目指す。

(2) 取組内容 地域在住の外国人に関心が高い防災をテーマに、災害時の際の避難場所や情報入手方法、非常時に必要な日本語を習得する。また、非常時に最低限の通報をするための日本語を学習する。

(3) 対象者 外国人・日本人

(4) 参加者の総数 78人

(出身・国籍別内訳 日本10人、ブラジル 40人、ペルー 26人、カナダ 1人、インド 1人)

(5) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 10 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月15日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	35人	日本(3人) カナダ(1人)、ブラジル(24人)、ペルー(5人)	非常食を体験しよう	・乾パン、アルファ米を試食し、体験。 ・冷蔵庫にあるものを上手に食べていくことで、食料備蓄の代わりになることを学ぶ。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
2	平成25年7月29日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	18人	日本(5人) カナダ(1人)、ブラジル(11人)、インド(1人)	防災グッズをつくってみよう	・ゴミ袋を使ってレインコートを作成。(身近にあるものを活用する) ・災害時、足を守るためにも、運動靴を用意しておくことの大事さを学んだ。	鈴木直之	タケハナ エルザ 吉里 サラ 芦澤 美香
3	平成25年8月9日 9:30~11:00	1.5時間	外国人学習支援センター	14人	日本(3人) カナダ(1人)、ブラジル(7人)、ペルー(3人)	避難所について知ろう	・避難所とは何か、どんなところか、スペースはどんなものか、実際に体験。避難者名簿作成。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
4	平成25年9月2日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	11人	カナダ(1人)、ブラジル(7人)、ペルー(3人)	災害時の緊急連絡方法を覚えよう	・携帯電話(スマートフォン)を活用した、災害時伝言預かりサービスを体験。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
5	平成25年9月23日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	20人	日本人(2人)ペルー(18人)	災害の怖さを知ろう	・地震、津波、液状化など、災害とはどんなものか改めて認識、学習。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
6	平成25年10月21日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	17人	日本人(2人)ブラジル(15人)	自宅でできる災害対策	・地震が起きたとき、自宅には危険なことが様々あるが、対策をすることで減災につながることを学ぶ。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
7	平成25年10月28日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	11人	日本(2人)カナダ(1人)、ブラジル(8人)	緊急地震速報ってどんなもの？	・テレビでの緊急地震速報は日本語でしかないため、音声や文字で認識し、緊急事態が判断できるよう学ぶ。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
8	平成25年11月4日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	18人	日本(4人)ブラジル(14人)	緊急時の連絡方法を知ろう(119番へのかけ方)	・火事や救急の際に119番にどのようにかければよいか、実際に体験。 ・AED、心肺蘇生法の体験	鈴木直之 豊田 剛	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
9	平成25年11月19日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	20人	カナダ(1人)、ブラジル(13人)、ペルー(6人)	災害に関する言葉を覚えよう	・今までに学んだ災害に関する言葉を日本語(漢字、ひらがな、カタカナ)、母語両方で確認。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香
10	平成25年12月3日 13:30~15:00	1.5時間	外国人学習支援センター	12人	日本(2人)カナダ(1人)、ブラジル(9人)	災害について啓発ポスターをつくってみよう	・これまでの知識をもとに、ひとりずつ災害に関する啓発ポスターを作成し、発表。	鈴木直之	タケハナ エルザ カイヤ マリステラ 芦澤 美香

(7) 参加者の募集方法

- 外国人学習支援センターに募集案内掲示・チラシ配布
- 外国人がよく行くスーパー・レストランに募集案内配布
- 自治会を通して募集案内

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

避難場所や情報入手方法、緊急連絡方法、伝言ダイヤルなど、災害時に必要な情報を提供すると共に、災害時・非常時に必要な日本語を習得した。また、外国人だけでなく、地域の日本人も活動に参加を呼び掛けることで活動を通して、お互いを知ることのできる場を提供した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

今回の取組では、災害ボランティアコーディネーター連絡会や消防署の方に講師として指導していただき、外国人が正しい知識を得るという面においても、また、行政機関との連携構築を築くという面においても有意義な取組となった。特に、緊急時の119番連絡体験については、体験後、学習者の中からも、今までどこにどのようにかけたらいいのかわからなかったり、日本語で話せないのが怖かったが、体験したことで、かけるのが怖くなくなったとの感想を聞くことができたので一定の成果は得られた。

(10) 改善点について

本取組では、日本人への参加も促し、日本人と外国人が地域住民としてお互いを知る活動の場にする目標としていたが、日本人の参加者が少なかったため、目標4に関しては十分達成できたとは言えない。今後は、日本人が参加しやすい工夫をしていく必要がある。また、日本人個人に参加を呼びかけるのではなく、外国人が多く住む地域の自治会に働きかけ、共同開催で防災訓練をするなどの取組に発展できるよう働きかけていきたい。東日本大震災直後は、外国人も防災に対する意識が非常に高かったが、3年経過した現在は、防災に対する関心も低下してきている。しかしながら、防災訓練等は、万が一に備えて、継続して行うことが必要のため、少しでも外国人が参加しやすい、興味を持てる活動を提供していく必要がある。

○取組2:親子絵本読み聞かせ日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

1. 日本語を勉強したいと思っても子どもがいることで学習の機会が少なかった外国人へ学習の機会を提供する。
2. 親子で絵本に親しみ、共に活動することで、子どもたちに日本の学校に入る前のプレリテラシー教育を行う

(2) 取組内容

授業前半は親子で読み聞かせ・日本語での活動を行い、授業後半は親と子に分かれ、子どもたちは日本語での活動、親は場面に応じた日本語の使い方を学習し、地域社会参加がスムーズに行えるよう合わせて習慣・マナーも学習する。

(3) 対象者 外国人親子

(4) 参加者の総数 72 人

(出身・国籍別内訳 日本 6人、ブラジル 37人、ペルー 29人)

(5) 開催時間数(回数) 27 時間 (全 18 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月11日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	日本(2人)、ペルー(14人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「いろいろといる」読み聞かせ。その後、いろいろな色を使って、絵画活動。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
2	平成25年7月25日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	15人	日本人(2人)ペルー(13人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「まるまるコロコロ」読み聞かせ。その後、大小の丸に切った折り紙を、自由に組み合わせ、パンダ・ゆきだるまなどの作品をつくる。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ

3	平成25年8月8日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	17人	日本(2人)、ペルー(15人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「さんさんさんかく」「かくかくしかく」読み聞かせ。その後、平面図形で見たて(意味づけ)あそび。サイズの違う丸、三角、四角に切った折り紙を組み合わせ、意味づけした作品を自由につくる。その後、大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
4	平成25年8月22日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	17人	日本(3人)ペルー(14人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「りんごがコロコロリンコ」読み聞かせ。その後、折り紙を使ってリンゴをつくる。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
5	平成25年9月12日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	日本(2人)ペルー(14人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「ぞうのエルマー」読み聞かせ。その後、オリジナルの「エルマー(パッチワーク柄の象)」を色鉛筆を使って描く。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
6	平成25年9月25日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	日本(3人)ペルー(16人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「はらぺこあおむし」読み聞かせ。その後、蝶の形に切った紙でデカルコマニーあそび。出来た模様を蝶の柄に見立てる。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
7	平成25年10月10日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	15人	日本(3人)ペルー(12人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「ぐりとぐら」「おおきなかぶ」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
8	平成25年10月24日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	日本(2人)ペルー(14人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「ふってきました」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
9	平成25年11月7日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	日本(2人)ブラジル(10人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「おでかけまえに」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
10	平成25年11月21日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	日本(2人)ブラジル(17人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「うどんドンドコ」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
11	平成25年12月12日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	17人	日本(2人)ブラジル(15人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「おおきなかぼちゃ」読み聞かせ。その後、ハロウィンのお面づくり。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
12	平成25年12月20日 10:00~11:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	27人	日本(5人)ブラジル(12人)、ペルー(10人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	多文化共生をテーマにした手作り絵本読み聞かせ。その後、子どもと大人にわかれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
13	平成25年12月24日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13人	日本(2人)ブラジル(11人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「えかきうたのほん」読み聞かせ。その後、他の絵かき歌も紹介し、実際に歌いながら書いてみる。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
14	平成26年1月9日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	日本(2人)ブラジル(14人)	絵本読み聞かせ・日本語講座	「ネッシーぼうや」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ

15	平成26年1月23日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デア レグリア学校	18人	日本(4人) ブラジル (14人)	絵本読み聞かせ・ 日本語講座	「三匹のこぶた」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
16	平成25年2月13日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デア レグリア学校	16人	日本(3人) ブラジル (13人)	絵本読み聞かせ・ 日本語講座	「きたかぜとおひさま」読み聞かせ。事前に、母語で話のイントロを伝え、話の展開を想像しながら進める。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
17	平成25年2月18日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デア レグリア学校	15人	日本(2人) ブラジル (13人)	絵本読み聞かせ・ 日本語講座	「しちひきのこやぎとおおかみ」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ
18	平成25年2月20日 13:00~14:30	1.5時間	ムンド・デア レグリア学校	13人	日本(2人) ブラジル (11人)	絵本読み聞かせ・ 日本語講座	「三びきのやぎのがらがらどん」読み聞かせ。その後、子どもと大人に分かれ、子どもにはひらがな読み指導。大人には、漢字指導(日常生活の中で見る漢字の意味理解指導)	芦澤美香	吉里 サラ タケハナ エルザ

(7) 参加者の募集方法

- 1.外国人学習支援センターに募集案内掲示・チラシ配布
- 2.外国人がよく行くスーパー・レストランに募集案内配布

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

前半は親子共に参加の読み聞かせ・日本語での歌や遊びなどを行った。後半は大人と子どもに分かれ、大人は日常生活に必要な漢字を学習した。特に非漢字圏の外国人は、漢字学習に関しては、入門期に諦めてしまう者がほとんどである。本活動では、大人には、少しでも漢字に興味を持たせ、QOL(生活の質)を向上するために、日常生活でよく見る漢字の字形・意味を母語で理解させることで漢字学習のハードルを下げる工夫をした。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

読み聞かせでは、たとえ日本語がわからなくても親子で同じ絵本の読み聞かせを実施することで、親子で同じ時間を共有することができた。また、歌や遊びを通して、日本語が理解できなくても、たのしく活動することができた。また、漢字学習も読み書き指導はせず、漢字の字形・意味のみを学習したため、無理なく学習できたようだ。

(10) 改善点について

親子そろって参加を促すことが予想以上に困難だった。ほとんどの親が働いており、時間的に余裕がないこともあるが、日本と違い、親や学校が積極的に読み聞かせをする習慣があまりないことも一因である。読み聞かせ活動は、日本語教育の一環として位置づけられているが、読み聞かせは、子どもの情操教育においては非常に有意義なものであるため、親へ「読み聞かせ」の重要性を啓蒙していく意味においても、継続して活動をしていく必要がある。

○取組3:文化体験日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

1. 本講座で日本語を習得することによって、地域で開催されるイベントや文化交流会への参加を促す。
2. 地域イベント等に参加することによって外国人のQOL(生活の質)を高める。

(2) 取組内容

地域の文化活動団体をはじめ、自治会等との連携により、外国人に関心のある日本文化をテーマとした日本語講座を実施する。当該講座を日本人と外国人との交流の場としても位置付け、日本語教育活動の必要性の啓発も促進する。

(3) 対象者 外国人・日本人

(4) 参加者の総数 120 人

(出身・国籍別内訳 日本 42人、ブラジル 51人、ペルー 27人)

(5) 開催時間数(回数) 24 時間 (全 12 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年6月10日 10:30~12:30	2時間	浜松市西区雄踏町	25人	ブラジル(9人)ペルー(9人)日本(7人)	文化体験	地元の米農家の方に協力していただき、苗付け体験。その後、田んぼ周辺を散策し、季節の植物や生物について学ぶ。	吉田 和子	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
2	平成25年7月27日 10:00~12:00	2時間	雄踏文化センター	52人	ブラジル(17人)ペルー(20人)日本(15人)	文化体験	地元のアンサンブル団体と音楽を通じて交流。手作りの楽器を使っのセッションや、演奏に合わせて日本語で歌を歌う。	村松 伸一	タケハナ エルザ 芦澤 美香 吉里 サラ
3	平成25年7月30日 10:30~12:30	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	55人	ブラジル(32人)ペルー(18人)日本(5人)	マナー講座	非行防止ワークショップ。安全な暮らしのために、街中に潜む危険な誘惑についての知識を身に付け、巻き込まれないようにロールプレイングを実施。	片野 幸子 武富 明美	タケハナ エルザ 芦澤 美香 吉里 サラ
4	平成25年8月9日 12:00~14:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	27人	ブラジル(11人)ペルー(9人)日本(7人)	文化体験	日本の手踊りとサンバとを融合させた踊りを通じて地元の方と交流。	出野 利明	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
5	平成25年10月9日 9:30~11:30	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	41人	ブラジル(20人)ペルー(15人)日本(6人)	マナー講座	道路標識や踏切の渡り方など、日本の交通ルールを学ぶ。その後、会場周辺を歩き、危険箇所の確認。	片野 幸子 武富 明美	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
6	平成25年10月22日 10:00~12:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	27人	ブラジル(14人)ペルー(10人)日本(3人)	マナー講座	日本の交通ルールを学ぶ。シミュレーターの機械を使い、自転車走行のルールを確認。	片野 幸子 武富 明美	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
7	平成25年10月23日 9:30~11:30	2時間	浜松市西区雄踏町	25人	ブラジル(9人)ペルー(9人)日本(7人)	文化体験	地元の米農家の方に協力していただき、稲刈り体験。その後、田んぼ周辺を散策し、季節の植物や生物について学ぶ。	吉田 和子	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
8	平成25年11月15日 13:00~15:00	2時間	浜松市中区中央	40人	ブラジル(20人)日本(20人)	文化体験	囲碁を日本語で習い、地元の方と交流。	柴田	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
9	平成25年11月23日 11:00~13:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	40人	ブラジル(23人)ペルー(12人)日本(5人)	文化体験	習字体験。とめ、はね、はらいの注意して日本語を書く。	出野 利明	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ

10	平成25年11月23日 13:00-15:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ブラジル(7人)ペルー(2人)日本(2人)	文化体験	着付け体験。浴衣と着物の違いを実際に見て学ぶ。	後藤 由香里	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
11	平成26年1月6日 10:00-12:00	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	22人	ブラジル(10人)ペルー(10人)日本(2人)	文化体験	書初め体験。とめ、はね、はらいに注意して日本語を書く。	後藤 由香里	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ
12	平成26年1月13日 10:00-12:00	2時間	外国人学習支援センター	20人	ブラジル(10人)ペルー(8人)日本(2人)	文化体験	日本語で説明を聞いて、凧づくりに挑戦。その後、グラウンドに出て、自分で作った凧を揚げる。	出野 利明	カイヤ マリステラ 芦澤 美香 吉里 サラ

(7) 参加者の募集方法

- 1.外国人学習支援センターに募集案内掲示・チラシ配布
- 2.外国人がよく行くスーパー・レストランに募集案内配布

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

自治会や地域で活動する団体と連携しながら、イベント・講習会を企画・実施した。外国人はイベント・講習会に参加し、その中で、日本語を習得すると同時に日本の文化・習慣・マナーを学ぶことができるよう工夫した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

様々な活動を自治会や地域で活動する団体と連携しながら実施することで、さらに連携体制の構築ができた。また、外国人もイベントや講習会に参加することによって、日本語だけでなく、日本の文化・常識・習慣・マナーも学習することができた。地域日本語教育においては、本活動のような地域と密着した活動を数多く提供することが必要である。

(10) 改善点について

より多くの人に参加してもらう為、祝祭日にできるように施設側と交渉を続ける。

○取組4:シンポジウム

- ・自治体・地域自治会・学校関係者等に参加を呼び掛け、文化庁の日本語教育の趣旨をより多くの人に周知する。
 - ・本活動取組内容・課題を報告し、様々な分野からの意見・アドバイスをもらい、活動内容のさらなる充実を図る。
 - ・本活動取組内容を参加者に理解してもらい、一人でも多くの人々の日本語教育活動への理解・参加を促す
 - ・本活動を中心として、さらなる団体・地域連携の体制整備を図る。
- (1) 体制整備に向けた取組の目標
- (2) 取組内容
1. 日本語教育に関する基調講演
 2. 25年度の取組における活動報告
 3. 24年度の取組の活動の現状報告
- (3) 対象者 日本人・外国人
- (4) 参加者の総数 52 人
(出身・国籍別内訳 日本 48人、ブラジル 1人、ペルー3人)
- (5) 開催時間数(回数) 1.5時間 (全 1 回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年3月3日 10:00~11:30	1.5時間	学習支援センター	52人	日本(48人)、ブラジル(1人)、ペルー(3人)	シンポジウム	日本語教育についての基調講演。その後、今年度の取り組みの成果発表。24年度事業の取組の現状報告も併せておこなう。	パネリストとして 坂本 正 鈴木 直之 高畑 幸 山下 佳那子 松本 雅美	岡 則子 芦澤 美香 出野 利明 後藤 由香里 タケハナ エルザ

(7) 参加者の募集方法

- 1.外国人学習支援センターに募集案内掲示・チラシ配布
2. 各連携機関に周知

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

地域在住の日本人、大学生を中心に参加を募り、基調講演、25年度の活動報告、及び24年度の取組で実施した活動の現況報告を行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

今年度でシンポジウムは2回目であるが、アンケート結果を見ると、昨年度よりも取組に対して理解され、高評価であった。これは、昨年度に引き続き参加していただいた方々がより理解を示してくれたこともあるが、今年度のシンポジウムにおいては、25年度の活動報告だけでなく、24年度より継続して取り組んでいる活動について現状報告したことで、活動が継続、発展していることに理解を示していただけたことがアンケートにも書かれていた。より多くの地域住民の方々に地域日本語教育を知ってもらうためには、本シンポジウムのように、実施している活動や日本語教育で目指していることを、外に発信していくことの重要性を改めて感じた。

(10) 改善点について

本事業においては、地域住民の方々との連携体制の構築は言うまでもないが、次世代を担う大学生の活動への参加に重点を置き、大学との連携協力体制を推進してきている。昨年度に比べると、大学生の参加者は増えたが、本シンポジウムは、現場での活動を知ってもらい、活動参加へのきっかけ作りとなるいい機会なので、さらに多くの大学生の参加を得られるようシンポジウム開催の周知方法を考えていきたい。

6. 事業に対する評価について

本校は、外国人の子どもの専門教育機関であることに加え、父兄や教員のネットワークにより、日常生活者としての外国人の生活現場について豊富な情報を捕捉している。大人から子どもまでを対象とした日本語教育が可能であり、外国人学校ならではのネットワークの活用等により、日本語学習が求められる日常生活者の掘り起こしも可能である。本校を活動拠点とし、行政、教育機関等をはじめ地域連携を通じて、日常生活者に密着した身近なテーマを題材に日本語教室を実施することで生活者としての外国人の日本語能力等の習得を目指す。また、日本人に本事業への積極的に参加を促し、シンポジウムにおいて本件事業の取組成果を情報発信することにより、地域への日本語教育の必要性の啓発、本件事業の取組成果を情報発信し、取組体制の推進を図ることで日本人と外国人を繋げ、共生社会の実現を目指す。

(1) 事業の目的

(2) 事業目的の達成状況

昨年度に引き続きプログラムBでの事業を実施したが、外国人学校という教育現場を活動拠点とすることで、日本人の方々に、より外国人や地域日本語教育について理解してもらいやすい。地域住民の方々には、学校現場での活動を通して、より外国人を理解してもらえ環境にあるだけでなく、学校現場であることから、日本の小・中・高校をはじめ、大学との連携も構築しやすい。特に次世代を担う大学生においては、本校と大学の連携だけでなく、本校がハブ校として、大学同士の連携体制も構築しつつある。

また、今年度のシンポジウムでは25年度の活動報告だけでなく、24年度の取組として行った活動が引き続き継続していること、そして発展していることを報告することにより、昨年度も参加して下さった方々にはより理解を示していただけた。本校自体が地域社会と密接に繋がりを持つことを目指しており、これまで実施してきている様々な活動や連携、そして、シンポジウム等で活動内容を発信することによって、理解・協力をさらに得ることができてきている。

(3) 地域における事業の効果、成果

外国人学校という教育機関が、地域日本語教育事業を実施することで、地域住民の方々には、学校現場での活動を通して、より外国人を理解してもらえ環境にある。また、学校現場であることから、日本の小・中・高校をはじめ、大学との連携も構築しやすく、特に次世代を担う大学生においては、本校と大学の連携だけでなく、本校がハブ校として、大学同士の連携体制も構築しつつある。これらのことを考えると、外国籍児童・生徒が在籍する外国人学校がプログラムBを実施する意義は大きい。

(4) 改善点、今後の課題について

- i 現状 取組や活動内容の発信がまだまだ積極的になされていないため、人的資源を有効に活用することができていない。
- ii 今後の課題
 1. 活動を出るだけ外部に発信する機会を設けること
 2. 24年度・25年度のプログラムBで実施してきた活動を継続し、発展させること
 3. より多くの日本人と外国人を繋げるために、新しい活動を創出すること
- iii 今後の活動予定 24年度・25年度実施した取組を継続し発展させていくと共に、新しい活動機会の創出を図る。